

- 1 日 時 令和元年10月〇日 (〇)
  - 2 学 年 第4学年〇組
  - 3 単元名 暮らしのうつりかわり  
(3)「きょう土を開く(地域の発展につくした人々)～平和大通りのひみつ～」
  - 4 単元について
- 本単元について、現行の学習指導要領には次のように書かれてある。

【小学校学習指導要領 社会(平成20年) 第3学年及び第4学年 内容(5)】

地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。  
ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例

《参考》【小学校学習指導要領 社会(平成29年) 第4学年 内容(4)】

県内の伝統や文化、先人の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること。

(イ) 当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現すること。

つまり、本単元は地域の発展に尽くした先人を具体的な事例として取り上げ、人々の生活の変化や願い、地域の発展に尽くした先人の働きや苦心を考え、理解する単元である。

そこで今回、地域の発展に尽くした先人の具体的事例として、「平和大通り(百メートル道路)の建設に尽力した浜井信三市長」を取り上げる。本事例の概要は、以下のとおりである。

原爆投下以降、広島市は「75年間草木も生えぬ」と言われ、市民は衣食住全てが不足するどん底の生活に苦しんでいた。当時の人々の願いは、まずは日々生きること。目の前の生活のことであった。『中国新聞(1945年12月19日)』に掲載された広島市民1000人のアンケート結果では、求めるものとして、「主食の増配418人、輸送の緩和209人、薪炭配給186人、学校施設の整備復旧159人、衣料その他の夜具・履物・傘の配給144人、簡易住宅の早急建設122人など」であり、当時、広島市の配給課長であった浜井信三氏は、市民のために食料や防寒具の配布に東奔西走していた。

そのような情勢の中で政府は、1945年12月に「戦災地復興計画基本方針」を出し、全国115都市に復旧計画を作成するよう促す。この基本方針には、交通の発展と防災を目的とした百メートル道路の建設についても盛り込まれており、東京や大阪など24本の百メートル道路が計画されることとなった。

〔※実際には、戦後のハイパーインフレーションの煽りを受け、各都市は、百メートル道路の計画は断念し、実現したものは名古屋の2本と広島だけであった。〕

広島市は、1946年1月に復興局を設置、2月に諮問機関である復興審議会を立ち上げ、官民一体とになって「復興都市計画」を立て、「軍都」から「平和都市」への方向性が定められた。百メートル道路については、初期の段階から平和公園建設計画とともに盛り込まれ、当時副市長であった浜井信三氏は、「防災目的だけでなく、平和都市にふさわしい安らぎを生み出す場として、将来に備えたゆとりの場として、都市のアクセントになる場として建設したい。」と考えていた。

しかし、当時の市民の間では、道路よりも目の前の衣食住を求める声が大きく、市議会でも「滑走路でもつくるつもりか」「土地の無駄遣い」と批判が起き、実際に、百メートル道路建設予定地にバラックを建て始める市民の動きも起きていた。更に計画を実行に移そうにも、税源が壊滅状態で

あったため、財源不足という問題も直面していた。

〔※財源不足に関しては、財源確保のため政府の援助を求めたが、戦災都市は広島市だけではない〕  
との理由で取り合われず、財源問題は大きな壁となっていた。

1947年4月、浜井信三氏は公選初の広島市長に当選した。その間も、熱心に将来の広島のため、平和都市に向かうため、百メートル道路の必要性を訴え続け、市民の平和都市への意識も高まり始めていた。同時に、在京の学友や県選出の国会議員らに協力を呼びかけ、政府へ支援を求める動きも行ってきた。その結果、1949年の国会において、特別法「広島平和記念都市建設法」が制定され、政府による財政支援を取り付けることに成功した。実際、百メートル道路にかかる平和大橋と西平和大橋はこの法に基づき、アメリカの対日援助資金を投入して建設できたものである。1951年には市民からの公募で百メートル道路の名称は「平和大通り」に決定し、百メートル道路の計画もいよいよ本格的に実行に移す段階になった。

しかし、ここでまたしても問題が浮上する。市民の間では住宅不足の問題が深刻化していた。この問題に対し、「百メートル道路幅を半減させて、住宅を建設する方がよい。」との声が広まり、その後の浜井信三市長3度目の市長選挙では、百メートル道路の半減とそこへの住宅建設を公言した渡辺忠雄氏に敗れることになり、浜井信三市長は落選。市民の願いは、これからの平和都市よりも目の前の衣食住に向けられた結果となった。

その後、百メートル道路の建設については、渡辺忠雄市長のもとでも話し合いは続けられ、平和都市にふさわしいように、百メートル道路の半減ではなく、代わりに大規模な供木運動を行う計画が立てられた。供木運動は、1957・58年の二年間で、県内各地から平和への願いが込められた木々が贈られ、百メートル道路は公園道路としての様相を呈するに至った。

1959年、浜井信三市長が再び広島市長として返り咲くと、百メートル道路の建設は再加速し、1965年に平和大通りとして完成し、全面開通した。

その後の百メートル道路は、「平和都市にふさわしい安らぎを生み出す場」として活用されることになる。中でも、浜井信三市長の死後9年後の1976年に、広島青年会議所の副理事長であった息子浜井順三氏のもとに、イベントの話が舞い込んだ。そこで、浜井順三氏は平和大通りで花を使った催し物を提案し、それが現在のひろしまフラワーフェスティバルへとつながっていく。その他にも、平和大通りは、ドリミネーションや朝市などが開かれる場となり、浜井信三市長が目指した「平和都市にふさわしい安らぎを生み出す場」として活用される道路となっていった。

このように、本教材「平和大通りの建設に尽力した浜井信三市長」を調べることは、当時の人々の生活の様子や願いを理解すると同時に、多くの困難を乗り越え、地域の発展に尽くした先人として、その働きや苦心を考えることができる教材であり、本単元に適した教材であると捉える。

- 本学級の児童は、社会科の学習に対して意欲的に取り組んでいる。4年生最初の単元「わたしたちのくらしと水」では、「水はどこからどのように来るのか？」の学習問題の下、問題解決的な学習過程を楽しみ、特に学習問題に対して予想を立てたり、それをみんなで検証したりすることを主体的に行った。また、前単元「古い道具と昔のくらし」で洗濯板の体験活動を行った際には、調べるのが具体的であったため、意欲的に調べたり、調べたことを具体的に表現したりすることができた。

一方、課題としては、調べたことが単発的な知識で終わることが多く、知識と知識を総合して考えをまとめることができない児童が多い。自分の経験やこれまでの学習した知識とつながっていない考えであったり、自分だけの一面的な知識であったりと、「深い学び」について課題が大きい。

本単元で取り上げる平和大通りについて事前にアンケートを行った結果、多くの児童がフラワーフェスティバルやドリミネーションで訪れたことがあると回答しているものの、33人中7人の児童が「行ったことがない。聞いたこともない。」と答え、本校からの距離的なこともあり、身近な存在ではない児童もいる。そういった児童は、自分の経験とは結びつけにくいことも考えられる。

○ 指導に当たっては、「深い学び」を目指し、学習と学習をつなげて考えたり、今までの経験や学習とつなげて考えたりできるように、次の4点を工夫していく。

1点目は、教師の教材研究の段階で、単元の構造図を設定することである。本単元の内容は、単元観で示したように時間軸で様々な事象が起こり、それに伴い、多くの人の願いや思惑があったり、当時の生活状況が大きく関わったりと考える視点が多く、教師もどのように考えるのか混乱しやすい単元である。そこで、各時間で何を学習するのか、そのことが最終的に何を考えることにつながるのか、学習と学習のつながりが分かるよう教師自身が整理して授業をしていく必要がある。そのことを常に意識できるように、単元の構造図を作成し、それを基に学習を進めていく。

2点目は、各時間の中で児童の振り返りの時間を大切にすることである。各時間で児童がそれぞれ何を考え、何が分かったのか、ノートに焦点化して書き留めることで、学習と学習がつながるようにしたい。また、各時間の振り返りは、次時以降に生かす展開にしたい。具体的には学習問題提示の際に取り入れたり、切り返し発問の中で紹介したりすることで、児童がこれまでの学習と関連付けて、本時の問いを考えられるようにしたい。

3点目は、各時間の学習問題に合わせた切り返し発問を用意することである。各時間の学習問題に対して、児童が一面的な考えに陥りそうな場面では、例えば「住む所で困っている市民はどう考えるか?」「なぜ市長はそう考えたのか?」「未来の広島市の自分たちから見るとどうか?」「お金のことを考えると?」「防災の視点で考えると?」など、見方に対する切り返し発問を用意したり、「共通点は?」「違いは?」「似たようなことは?」と考え方に対する切り返し発問を用意したりすることで、様々な知識や考え、経験を関連させ、多角的な視点で考える「深い学び」へと導きたい。

4点目は、具体的資料の工夫である。児童観にあるように、百メートル道路に訪れたことのない児童がおり、自分ごととして考えたり、自分の経験と結びつけて考えたりしにくい児童がいると考えられる。それらの児童が少しでもイメージをもったり、似た経験と結びつけて考えたりすることができるよう、教材研究で見つけた写真や図などの具体的資料を豊富に用意して学習に臨みたい。

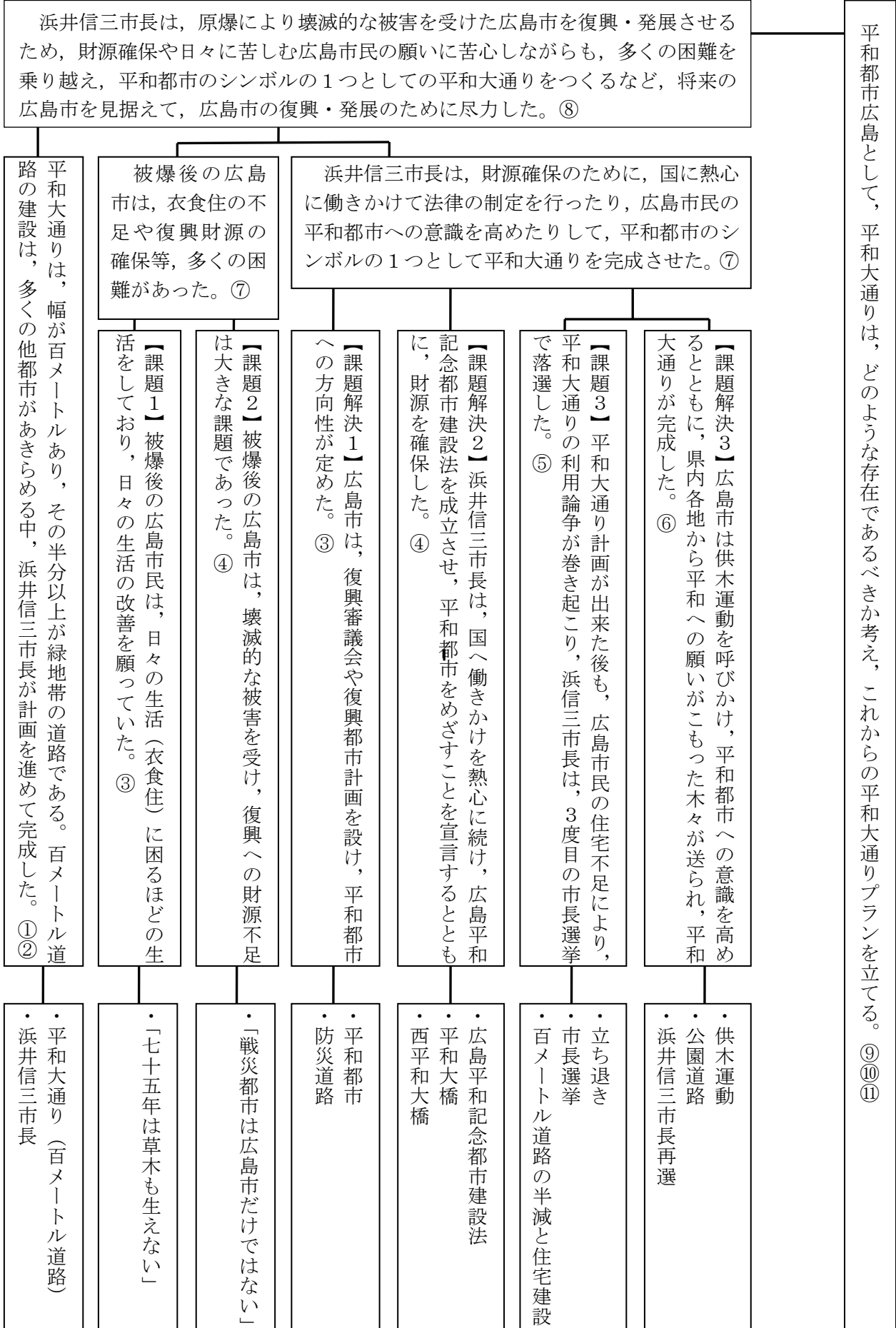
## 5 単元の目標

- 広島市の復興・発展に尽くした先人の働きに関心をもち、多くの困難を乗り越えて平和都市として発展した広島市に誇りと愛情をもち、今後のよりよい発展を考えようとすることができる。
- 広島市の復興・発展の証の1つである平和大通りから学習問題を見だし、そこに尽力した先人の働きについての情報を読み取り、まとめることを通して、広島市民の当時の願いや生活の状況とともに、そのような情勢の中で発展の礎を築いた先人の苦心や働きを理解することができる。

## 6 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
① 広島市の発展に尽くした先人の働きに関心をもち、意欲的に調べている。	① 広島市の発展に尽くした先人の働きについて、学習問題や予想、学習計画を考え、適切に表現している。	① 広島市の発展に尽くした先人の働きについて、資料から必要な情報を読み取っている。	① 広島市は、平和都市として発展してきたことを理解している。
② 先人の努力によって発展してきた広島市に対する誇りと愛情をもち、これからのよりよい発展を考えようとしている。	② 市民・先人双方の願いを比較・関連付けて、先人の苦心や努力について考えることができる。	② 調べたことや考えたことを年表や作品、ノートなどにまとめている。	② 広島市の復興・発展のために、多くの困難を乗り越えた先人の働き、苦心について理解している。

7 単元の構造図



8 学習指導計画（全11時間 本時8 / 11）

過程	ねらい	主な学習活動と予想される児童の反応	■教師の働きかけ □評価 ☆資料
<p>社会認識を育てる場</p>	<p>平和大通りやそれを作った人とその時代について関心をもつことができる。</p> <p>学習問題を設定し、予想を立てることができる。</p>	<p>① 写真や図から平和大通りについて知り、疑問を挙げる。</p> <div data-bbox="539 421 1433 483" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     平和大通りについて知り、？や！をたくさん出そう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東西に3.8キロメートル。</li> <li>・百メートル道路とも呼ばれる。</li> <li>・幅100m中、57mが緑地帯。</li> <li>・建設を進めたのは浜井信三市長</li> <li>・他の都市ではお金がないのであきらめた。</li> <li>・なぜ、こんな道路をつくったのだろう。</li> </ul> <p>② 前時の疑問を出し合い、学習問題を設定し、各自で予想を立てて交流する。</p>	<p>■ 平和大通りに関心もてるよう、道路と思えない平和大通りの写真（遊具や銅像）をクイズ形式で紹介する。</p> <div data-bbox="539 483 1433 510" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     平和大通りについて知り、？や！をたくさん出そう。                 </div> <p>■ 具体的なイメージをもったり、今までの経験と結びつけたりできるように、たくさんの写真や図を用意する。</p> <p>■ たくさんの？や！が出せるよう、授業の途中で児童がつぶやいた？や！も板書する。</p> <p>□ 平和大通りやそれを作った人に関心もち、驚きや疑問を出すことができる。</p> <p style="text-align: center;">【関①：発言・ノート】</p> <p>☆「平和大通り（写真）」「浜井信三市長」「百メートル道路の全体図と断面図」</p>
		<div data-bbox="539 1193 1433 1256" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     学習問題と予想を立てよう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ、緑地帯が半分以上もある道を作ったのだろう。</li> <li>・なぜ、100mもある道を作ったのだろう。</li> <li>・お金はどうしたのだろう。</li> </ul>	<p>■ 児童の似たような疑問や意見をつなげることができるよう、事前に児童の考えを把握しておく。</p>
		<div data-bbox="539 1478 1433 1541" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     なぜ、平和大通りをつくったのだろうか。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原爆で緑が全部焼けたからではないか。</li> <li>・広い道でイベントをやりたいからではないか。</li> <li>・もう、戦争をしないためにつくったのではないか。</li> </ul>	<p>□ 平和大通りやそれを作った人についての驚きや疑問から学習問題を作り、それに対する予想や調べる視点を考えることができる。</p> <p style="text-align: center;">【思①：ノート】</p>
<p>ふかめる</p>	<p>被爆後の広島市民や浜井信三市長の願いから、広島市が平和都市を目指したことになったことがわかる。</p>	<p>③ 被爆後の広島市民と浜井信三市長の願いについて考え、広島市が平和都市を目指していったことを知る。</p>	<div data-bbox="539 2000 1433 2063" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     被爆後の広島市民と浜井信三市長の願いについて考えよう。                 </div>

社会認識を育てる場	平和都市としての計画を進めていく上での問題を解決する浜井信三市長の働きや苦心について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生き残っても住むところも食べるものもない。今着ている服だけ。</li> <li>・当時配給課長だった浜井信三</li> <li>・「75年は草木も生えない」</li> <li>・広島市の復興について考える会議が開かれた。</li> <li>・やっぱり原爆で「草木が生えない」といわれるようになったから緑いっぱいの平和大通りをつくることになったのかな。</li> </ul> <p>④ 財源不足という問題を自分ならどう乗り越えるかを考え、浜井信三市長の解決方法について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日々の生活に困る市民の願いと、それでも将来の広島市のためにまちづくりが必要という人たちの両者の願いが分かるよう、写真や資料を複数準備し、それを構造的に板書する。</li> <li>□ 被爆直後の市民の願いとともに、広島市は平和都市を目指していったことが理解できる。</li> </ul> <p>【知①：発言・ノート】</p> <p>☆ 「被爆直後の広島町の様子(写真)」 「峠三吉氏提案 1965年の広島」</p>
	同上	<p>浜井信三市長はお金がない中、どうやって平和大通りをつくったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に募金を呼びかけたのかな。</li> <li>・国にお金を出してもらおう。</li> <li>・この時代はどの都市も個人もみんなお金がなかった。</li> <li>・広島に関わる人たちと協力し平和都市をつくる約束をして、広島に援助してもらえ法律をつくった。</li> <li>・平和大通りにかかる2本の橋は、この法律のおかげでできた。</li> </ul> <p>⑤ 住宅不足による市民の平和大通り建設反対を自分ならどう乗り越えるかを考え、浜井信三市長の願いや苦心について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 財源不足の解消という児童にとって難しい問題について扱うため、自分ならどうするかを聞き、アイデアがたくさん出るような場づくりをする。</li> <li>□ 浜井信三市長が広島市の復興・発展のために努力、苦心したことを理解できる。</li> </ul> <p>【知②：発言・ノート】</p> <p>☆ 「広島平和記念都市建設法の主な内容」「平和大橋・西平和大橋(写真)」</p>
	<p>浜井信三市長は、なぜ多くの市民が反対する中で平和大通りをつくったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当時の市民の中には平和大通りよりも住宅の方を求めている人々がいた。</li> <li>・建設予定地にバラックを建てた人たちは立ち退きを迫られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第3時に学習した市民の求めていることと関連付けて問題を提示する。</li> <li>■ 市民とまちづくりを進める人の両者の願いを理解した上で考えられるよう、第3時のノート</li> </ul>	

<p>社会認識を育てる場</p>	<p>ふかめる</p> <p>資料から対立候補や市民も平和大通りに協力したことについて読み取ることができる。</p> <p>今まで調べたことを年表に整理し、ふりかえることができる。</p> <p>学習問題についての自分の考えを話合うことを通して、平和大通りの意味を考えること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜井信三市長は、平和大通りの幅を半分にして住宅の建設を進めようとした渡辺忠雄氏に選挙で破れた。</li> <li>・自分だったら選挙に当選するために平和大通りの建設をあきらめるかもしれない。</li> <li>・たとえ選挙に敗れても平和記念都市には平和大通りが必要だと考えたのだろう。</li> </ul> <p>⑥ 平和大通りが完成した理由について、供木運動の資料から読み取り、考える。</p>	<p>活用させる。</p> <p>□ 市民・先人双方の願いを比較・関連させながら、浜井信三市長の苦心、努力を考えることができる。 【思②：発言・ノート】</p> <p>☆ 『夕風の街と人と』「1952年ごろの平和大通り（写真）」</p>
		<p>浜井信三市長が落選したにも関わらず、なぜ平和大通りはできたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渡辺市長は、100mを半減させることを周りから止められ、他の公園用地に住宅を建設することにした。そして、供木運動を呼び掛けた。</li> <li>・県内・市内各地から願いがこめられた木が贈られ、市民自らも協力した。</li> <li>・市民も緑豊かな平和都市にしたいと願いが変わっていったのではないか。</li> <li>・市民の生活も少しゆとりができたのではないか。</li> </ul> <p>⑦ 今までの学習を年表に整理し、まとめる。</p>	<p>■ 自分の考えはどの資料から読み取ったものなのか、または複数の資料から考えたことなのかなど、根拠を確認しながら進める。</p> <p>□ 資料から平和大通りができた理由を読み取っている。 【技①：発言・ノート】</p> <p>☆ 「供木を呼び掛けるポスター」「供木運動により寄せられた樹木を平和大通りに植えている様子（写真）」「供木先一覧表」</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・原爆投下から平和大通りの完成までを年表にまとめる。</li> <li>・学習問題についての自分の考えを個人でまとめる。</li> </ul> <p>⑧ 学習問題についての自分の考えを話合うことを通して、平和記念都市広島にとっての平和大通りの意味を考える。</p>	<p>■ これまでの学習の関連を見やすくするため、( )抜きにした年表を用意する。</p> <p>□ 調べたことや考えたことを年表にまとめることができる。 【技②：年表】</p> <p>☆ 年表</p>
		<p>調べたことを年表にまとめ、学習をふりかえろう。</p>	

<p>社会認識を育てる場</p>	<p>ふかめる</p>	<p>ができる。(本時)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>なぜ、平和大通りをつくったのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やはり、緑の豊かさが平和を表しているから。その緑には人々の願いも込められている。</li> <li>・平和大通りは、平和記念都市広島にとってシンボルのような存在。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第2時で立てた予想と同じ考えの児童には、単元で学んだことを根拠に加えて発表するよう声かけをする。</li> <li>■ 一面的な視点に留まったり、抽象的な言葉で表現したりしている児童には、別の視点を示したり、具体的にするよう声かけをしたりする。</li> <li>□ これまでの学習を関連させて、平和大通りの存在の意味について考えることができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【思②：発言・ノート】</p> <p>☆「広島フラワーフェスティバル(写真)」「浜井信三市長の言葉」</p>
<p>実践的な力を育てる場</p>	<p>いかす</p>	<p>今後の平和大通りや広島のみちづくりについて考えることができる。</p>	<p>⑨⑩⑪ 平和都市のシンボルとして平和大通りをよりよくするためのプランを立て、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>これからの平和大通りプランを立てよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アオギリのように、願いを込めて60年前に植えられた木の赤ちゃんを育てていこうプラン</li> <li>・浜井信三市長の働きや平和大通りの歴史を知ってもらえる通りにしようプラン</li> <li>・平和公園とセットで回ってもらえるようにしようプラン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ これまで学んだことを根拠にこれからの平和大通りプランを考えられるよう、これまでのノートや年表を活用させる。</li> <li>■ 平和大通りが抱える問題からも考えられるよう資料を準備する。</li> <li>□ 調べたことや考えたことをもとに作品にまとめることができる。</li> <li>□ 広島市に対する誇りと愛情をもち、平和記念都市広島のよりよい発展を考えようとしている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【技②：作品】</p> <p style="text-align: right;">【関②：作品】</p> <p>☆ 副読本資料「平和大通り樹の会の方のお話」</p>



9 本時の目標

学習問題について話合うことを通して、平和大通りの存在の意味を考えることができる。

10 本時の学習展開

学 習 活 動	■教師の働きかけ □評価 ☆準備物
1 前時の学習を振り返り、学習問題を確認する。	
なぜ、平和大通りをつくったのだろうか？	
2 各自の結論を発表し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・やはり、緑の豊かさが平和を表しているから。供木運動であったように、その木々には人々の願いが込められているから。</li> <li>・やはり、戦争をしないため。世界に平和をアピールする代わりにもらったお金で建設したから。</li> <li>・未来のぼくたちに平和の大切さを知ってもらうため。今ではフラワーフェスティバルなどのイベントもやっているから浜井信三市長の思いは引き継がれた。</li> <li>・浜井信三市長は未来のことまで考えていたのかな。</li> <li>・浜井信三市長は将来にわたって、広島市を平和記念都市として発展させていきたいと考えていた。そして、それを受け継いだイベントもあるんだね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 児童のそれぞれの考えを関連付けて発表できるよう、事前に児童の考えを把握しておく。</li> <li>■ 特に、第2時で立てた予想と同じ考えの児童には単元で学んだ根拠を加えて発表するよう声かけをする。</li> <li>■ 一面的な視点に留まっている時は、「誰のための道路？」など、視点を変える切り返し発問をする。</li> <li>☆ 写真「フラワーフェスティバルの折り鶴みこし」</li> <li>■ 平和教育プログラムで学習したことを関連させるため資料を準備する。また、フラワーフェスティバルがどんなことを願った祭りであったか、百メートル道路がどんな願いで作られたかを比較させるための問いを行う。</li> <li>☆ 浜井信三市長の言葉「百メートル道路は、将来に備えてのゆとりとしても都市のアクセントとしても、これはぜひつくっておかねばならないと考えたのである。」</li> </ul>
3 平和記念都市広島にとって、平和大通りはどんな存在なのだろう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平和のシンボル</li> <li>・なくてはならないもの</li> <li>・広島市の中心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事前に副読本に目を通して「シンボル」という言葉を出してくる児童には、「シンボル」とは何なのか言葉の意味を調べさせたり、具体的に平和大通りの何が平和を表しているのかを切り返し発問をしたりする。</li> <li>□ これまでの学習を関連させて、平和大通りの存在の意味について考えることができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【思②：発言・ノート】</p>
4 本時の振り返りを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学習問題を解決することができたか、他の児童の考えを聞いてどう感じたか等の視点で書くように声かけをする。</li> </ul>

11 参考資料（出典）

- ① 浜井信三『改訂復刻版 原爆市長 よみがえる廃墟広島の記録』、平成 18 年
- ② 石井光太『原爆 広島を復興させた人々』集英社、2018 年
- ③ 弓狩匡純『平和の栖 広島から続く道の先に』集英社クリエイティブ、2019 年
- ④ 被爆 70 年史編修研究会『広島市被爆 70 年史 あの日まで そして、あの日から 1945 年 8 月 6 日』広島市、2018（平成 30）年
- ⑤ 広島都市生活研究会編今堀誠二監修『都市の復興・広島被爆 40 年史』広島市企画調整局文化担当、1985 年
- ⑥ 中国新聞「社説 広島平和都市建設法 70 年 その理念 今に生かそう」2019 年 6 月 8 日
- ⑦ 中国新聞「平和都市法 70 年 元広島大教授石丸紀氏に聞く 興街全体でヒロシマ発信 市民参加で歴史継承を」2019 年 7 月 17 日
- ⑧ 中国新聞「広島復興の姿次なる一步」2019 年 7 月 17 日
- ⑨ 中国新聞「球場跡地 どう描く」2019 年 8 月 29 日
- ⑩ ラウンドちゅうごく「バックミラーの中の“原爆市長”～復興に散った命の素描～」NHK 広島放送局、2019 年 7 月 19 日放送